

English Garden 第71話

"Home is the sailor, home from sea,
And the hunter home from the hill."

Robert Louis Stevenson

「ふるさとへ 船乗りは海から帰り、
ふるさとへ 狩人は山から帰る」
ロバート・ルイズ・スティーヴンソン

前回のイェイツの墓碑銘に刺激されて、いろいろ墓碑銘を集めてみました。表題の詩は「宝島」や「ジキル博士とハイド氏」などで有名な スティーヴンソン(1850-94)の自作の墓碑銘です。まずこの句の出典である "Requiem" (「鎮魂歌」)をご紹介します。

Under the wide and starry sky
Dig the grave and let me lie.
Glad did I live and gladly die,
And I laid me down with a will.
This be the verse you grave for me:
"Here he lies where he longed to be;
Home is the sailor, home from sea,
And the hunter home from the hill." 星のきらめく広い空の下に
墓を掘り 私を葬ってください。
私は喜んで生き、喜んで死に、
進んで憩いの床につきました。
墓碑にはこう刻んでください - -
「自分で望んだこの場所に彼は憩う。
ふるさとへ、船乗りは海から帰り、
ふるさとへ 狩人は山から帰る」



スコットランド出身のスティーヴンソンは生まれつき病弱でしたが、若いころからスイス、南ヨーロッパ、アメリカなど各地を旅行し、たくさん作品を書きました。1890年には南海への旅に出て太平洋諸島をめぐる、サモア島に定住して島民から尊敬されるようになりました。彼のお墓はサモア島の太平洋を見下ろす山の頂にあり、碑にはこの鎮魂歌全体が刻まれています。

次はウィリアム・ブレイクの自作の墓碑銘です。

was buried near this dyke,
That my friends may weep as much as they like.
私はこの堀のそばに葬られた
友人たちが心ゆくまで泣けるように。

自分の死を悲しんで友人たちがたくさん涙を流しても困らないよう、堀のほとりに墓を作ったという、うめぼれの強い、諧謔味のある作品です。(ブレイクについては[English Garden 41](#)を参照)
もう一つ、ユーモアのあるものをご紹介します。夫が、亡くなった奥さんのために書いた墓碑銘です。

Here lies a woman, no man can deny it,
Who rests in peace although she lived unquiet,
Her husband prays you, if by her grave you walk
You gently tread, for if she wake she'll talk.
ここに一人の婦人が眠る これは疑いのない事実。
生前は騒々しかったがいまは静かに憩う。
夫からの願いです、墓のそばを歩くときはお静かに。
妻が目覚めるとしゃべりだしますから。

生前おしゃべりだった奥さんに対するこのような墓碑銘は結構多いようです。でも、皮肉の中にもユーモアがあって、こっそりと墓参りにきたであろう夫のほんわかとした愛情も感じられます。西洋のお墓にふと興味をそられました。(引用の詩の訳は筆者自身による)

参考文献:

『エピタフ - 英国墓碑銘集』梅森元弘著、荒竹出版、昭和63年刊

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンスソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。